

13 次の世代につなげる

取組事例

55

森のせんせい養成講座

～ NEALリーダー（自然体験活動指導者）編 ～

三重県（みえ森づくりサポートセンター）



ワークで子どもたちの声を引き出している様子

実施時期	令和6年11月～12月
実施場所	1・2回目：松阪市森林公園 3・4回目：四日市市少年自然の家
時間	4日間（1泊2日×2回）
対象・人数	指導者として活動する意向のある人 7人（30代～70代）
講師	天理大学 准教授 蓬田高正氏 遊び心 岡野ころろ氏 国立曽爾青少年自然の家 菱川裕輝氏
備考	みえ森づくりサポートセンターによる講座

めざす姿	13 次の世代につなげる 01 遊び・楽しむ 02 親しむ 03 興味・関心を持つ 04 違いに気づく、 06 知識・技能を身に付ける、 08 地域の課題に目を向ける、 10 課題解決への参画、 11 行動を起こす、 12 仲間と活動する）
ねらい	森林をフィールドとした体験活動を推進するため、体験活動にかかる指導者（体験活動指導者）の資質と指導力の向上を図る
内容	【1回目】 ・自然体験保育活動の性質：地域の自然活用の特色や自然体験活動の意義と課題について学び、自然体験活動の意義を理解する ・青少年における体験活動：青少年における体験活動の意義を理解する ・自然体験活動の技術：木工体験（机づくり、箸づくり）をはじめとする様々な自然体験活動の体験と、基本的な技術、自然体験活動の構成について学び、理解する 【2回目】 ・自然体験活動の安全管理：自然体験活動における基本的な安全管理と応急処置について学ぶ ・自然体験活動の指導：自然体験活動指導者としての基本的な心構えを理解する ・対象者理解：対象者の特徴を理解する方法について学ぶ 【3回目】 ・自然体験活動の実践：ジュニアフォレスター育成講座参加者を対象に、木工体験（机づくり）やキャンプファイヤーの指導・支援を通し、その技術を身に付ける 【4回目】 ・自然体験活動の実践：ジュニアフォレスター育成講座参加者を対象に、木工体験（箸づくり）や野外炊事の指導・支援を通し、その技術を身に付ける ・4日間で学んだことをふりかえり、知識・技能の定着を図るとともに、今後の活動に向けた方針を考える

取組の内容

自然体験活動の意義についての
講義の様子

1日目

体験活動の体験の様子



体験する

小刀を使う際の指導方法について学んでいる様子

知る



体験を通して対象者理解の難しさを学んでいる様子



体験する

子どもたちと一緒にワークに取り組む様子



体験する

小刀の使い方を指導している様子



体験する

実践のふりかえりをしている様子

考える



2日目

自然体験活動における事故の判例をもとに
対応策を考える演習の様子

考える



体験をともにする子どもたちと自己紹介をしている様子



体験する

木工の補助をしている様子



体験する

4日目

焚き付けの指導をしている様子



体験する

おしまい

参加者の
反応

- ・ 1・2回目の研修と、3・4回目の実践で、段階を経てより深い学び、実践につながったと思います。
- ・ 指導者の方に教えていただき、自分がリーダーになった後のビジョンが想像しやすかったです。
- ・ 1回目は講師の方々から机上や実践等を交えながら、自然体験活動について教えていただき、まだまだ自分の中に落とし込めてないところもあるなと振り返っていたのですが、2回目は実際に子どもたちと共に過ごしなが、子どもたちの姿から学ぶことができ、生の体験の中で、自然体験活動とはこういうことか！この学びを深めるためのリーダーのあり方って？など、私自身の中でたくさん考え、学ぶ機会をいただくことができました。
- ・ 「きこりになりたい」という子どもの言葉はうれしかったです。小学生向けに林業の話ができたらしかったです。
- ・ 自分がリーダーになったら、対象者を案内することが大切だということを学ばせていただきました。自身の活動の中でもイベントを定期的に開催したいと思います。